

3/26 薬害スモン事件の ミニ学習会を開催しました♪

講師は辻川郁子さん。雨が静かに降る中、痛みや痺れのある体をおして大塚まで来てくれました。静かですが低く張りのある、親しみやすい声に引きこまれてしまいました。

辻川さんは大手電機メーカーの下請けの経理をしていました。しかし、組合運動も積極的にしていたため、組合つぶしの不当解雇におい裁判闘争をすることに。そのストレスからクッシング症候群となり長期療養を余儀なくされたそうです。その時に投与されたキノホルム製剤が原因でSMONになったということです。

クッシングも克服し、裁判に勝って職場復帰をしなければという時でした。足先の感覚がないのに腹部の方まで痺れと痛みが這い上がっていく。立って歩くどころか、排泄の感覚さえ奪われ便器を敷いて寝る状態。防護服を着たスタッフに個室で全面介護され「もう死ぬしかないのかな」と思ったそうです。でも「外に目を向けたい、大部屋に移してもらえるか」とDrに訴え、スモン研究班のDrのいる病院に移ることとなり、生きる道がまた始まりました。続く・・・



薬いろいろ・・・<利益相反もあらためて考える>

製薬企業から大学、医療機関へのお金の流れ公開

‘13年度に日本製薬工業協会に加盟していた72社の’12年度に医師や医療機関に提供した資金の総額が4827億円であることが報道されました。’15.4.6 毎日新聞

その内訳は、新薬開発等臨床試験費用、研究開発費が2471億円、研究室への寄付金(奨学寄付金)や学会への寄付金(学術研究助成費)が540億円、講師謝礼や原稿料等が270億円、講演会や説明会の開催費など情報提供関連費が1428億円、接待費が115億円となっています。これは国の医療分野の研究開発関連予算の2.5倍です。

この調査結果は医療機関や医師からの強い反発がありながらも、ディオバン事件やこれまでの利益相反問題の批判を受けて公表することとなりました。

「この金がなければ開発も研究もできない！」と肯定する意見もありますが、臨床研究の決まりがなく、企業言いなりで、データ操作することに何の罰則も規制も監視も無い状況では、その研究自体無意味なものとなってしまいます。

また、注目すべきは情報提供費の多さです。宣伝費用を多く出せる企業の薬が広く知れ渡り、それはたいてい効果には尾ひれを、副作用には覆いをつけ、CGイラストを駆使してプレゼンされています。

新薬の情報源は企業の製品説明会が安易で便利なのが現状で、慎重に使おうといっても実践できていると言えるでしょうか？学会の見解にしてもガイドライン委員会のメンバーに利益相反の可能性を否定できないご時世です。

「薬とカネ」の流れを広く国民に曝すことで、「薬は善意で作られている」という神話の裏側を考えてもらうきっかけになればと思いました。



☆2015年の薬害根絶デーは8月24日月曜日です！☆

2015年4月15日(水)、5月14日(木) 18:30から 新宿御苑前
スモン公害センターで実行委員会開催！どなたでもお気軽に参加を

